

第1回「新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議」概要

1 日 時 令和3年2月2日（火） 午後1時30分から午後3時30分まで

2 場 所 徳島グランヴィリオホテル 1階 グランヴィリオホール

3 出席者

（1）委 員 15名中14名出席

（2）県教委 教育次長，教育創生課長，事務局員4名

4 議事概要

（1）県教育委員会あいさつ

（2）委員紹介

（3）会長・副会長の選出

互選により，山下一夫委員を会長に，坂田千代子委員を副会長に，それぞれ選出。

（4）事務局説明

○本県公立高等学校の現状について

○高等学校改革に係る国の動向について

（5）意見交換

5 意見交換において検討会議委員から出された主な意見

（特色化・魅力化を図るための方策について）

（1）スクール・ミッション，スクール・ポリシーの策定

○各高校の存在意義等を示すスクール・ミッションや，教育活動の指針となるスクール・ポリシーの策定は，中学生の目的意識を持った進路選択に有効である。

○本県教育の基本方針等を定めた「徳島教育大綱」を踏まえるとともに，当該校におけるこれまでの取組を更に発展させる形で策定することが望ましい。

○ビジョンが明確で組織内に浸透している企業が活躍するように，スクール・ミッションを教職員間で共有している学校が，魅力化に成功するのではないか。

（2）普通科の特色化・魅力化

○再編統合により魅力を高めた専門高校があるように，特徴がわかりにくい普通科には，再編統合の可能性も踏まえながら，より一層の創意工夫を期待したい。

○学習活動とともに，スポーツや文化，科学等に関する部活動の両面から魅力化を推進し，例えば，他に類を見ない学科や部活動の創設も検討してはどうか。

○社会的・職業的自立に向けた教育や法教育，また，地域を誇りに思う教育など多様な教育活動を取り入れ，生徒の夢や志の実現を支援していただきたい。

（3）在り方検討の方策

○教育活動の展開には地域社会との連携・協働が求められており，特色化・魅力化の推進にも，コミュニティ・スクールの果たす役割が重要ではないか。

○現行の入学選抜（特色選抜）は，出願要件の対象が特定のスポーツ経験者に偏っていることから，多様な生徒に対応できるよう，見直してはどうか。

○人口減少が進む県内の自治体が地元高校を積極的に支援し，高校は地域の活性化に貢献するといった協力関係にある取組を，更に拡大してはどうか。